

# 困り果てる家族

## ゲーム・スマホ依存 特徴と対処法

前日も書きましたが、ゲーム依存の本人が自ら進んで病院を訪れることは、ほぼ皆無です。家族が困り果てて、何とか病院に連れてくるわけですね。それでは、家族は何に困っているのでしょうか。その一端を理解していただくために、ケースをお示しします。本人のプライバシー保護のために、年齢や生活状況を変えてあります。

本人は初診時、高校1年生の男性。両親と妹の4人家族。8歳からネットに接続していないオンラインゲームをしていましたが、友人と遊ぶ時以外は1日30分のゲーム時間を守っていました。私立中学に

国立病院機構久里浜医療センター院長

### 樋口 進

入り、スマホを買ってもらいました。それ以後、友人からSNSでゲームに誘われ、オンラインゲームをするようになりしました。

放課後の部活と帰宅後のゲームに時間を取られ、家では全く勉強しなくなりました。授業内容についていけないのと、夜中までのスマホゲームで朝起きられないのが重なり、中2、中3はそれぞれ40日ほど欠席しました。

この間、父親からスマホの使用時間をかなり厳しく制限



- 2 -

## 注意すると暴力を受けることも

されていましたが、なかなか守れませんでした。母親がスマホの使い過ぎを注意すると、大声を出し、母親に暴力を振ります。包丁を持ち出すこともあり、母に向けたり自分に向けたります。その

ため、母親が警察を呼んだことも数度あります。

使用時間を守れないと父による制限がさらに厳しくなり、本人が、それにまます反発するという悪循環に陥っていきます。父親とはほとんど話がなくなり、本人は護身用のためかナイフを所持しているようで母親は心配しています。最近、ゲームをするために、親に内緒でスマホを入手したようですが、母はそれを本人に指摘すべきか、悩んでいるとのこと。

このケースは、まだ学校に行けているのが救いですが、長期の不登校の受診ケースも多数見られます。また、多額の課金の対応に家族が悪戦苦闘しているケースも見られます。

©公明新聞